

ゴマサバ (太平洋系群) ①



■ゴマサバ太平洋系群の現在の状況

ゴマサバは日本周辺に広く生息しており、本系群はこのうち太平洋側に分布する群である。

図1 分布図

分布の中心は日本の太平洋側。産卵場は日本の太平洋南岸。

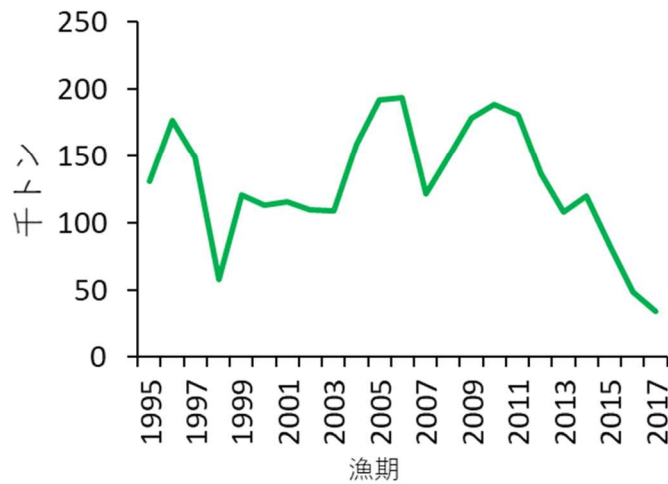


図2 漁獲量の推移

漁獲量は、2005～2011年漁期は高い水準で推移していたが、2012年漁期以降、減少傾向。2017年漁期の漁獲量は35千トンと低い水準。

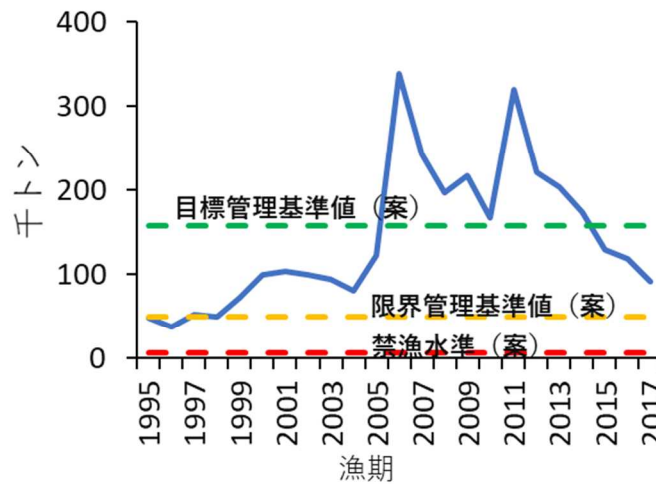


図3 親魚量の推移

親魚量は、2012年漁期以降、減少傾向。2017年漁期の親魚量は、目標管理基準値案を下回るが、限界管理基準値案は上回る。

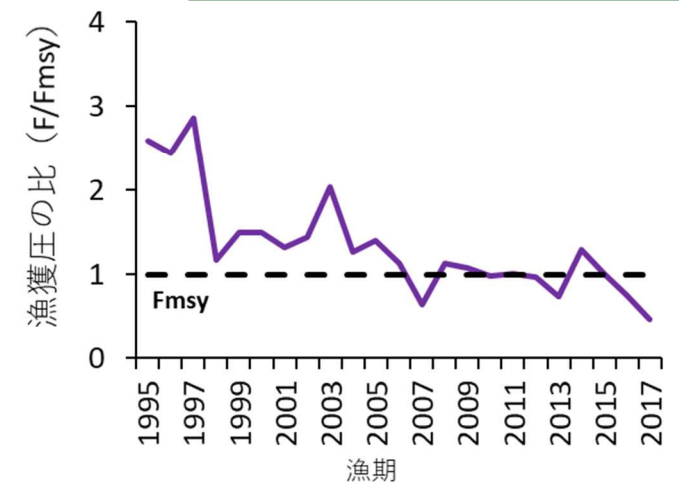


図4 漁獲の強さの推移

漁獲圧 (F) は、2006年漁期以前においては最大持続生産量を実現する漁獲圧 (Fmsy) を上回っていたが、2007年漁期以降は Fmsy 前後で推移している。

ゴマサバ (太平洋系群) ②

■ 管理基準値案と漁獲管理規則案

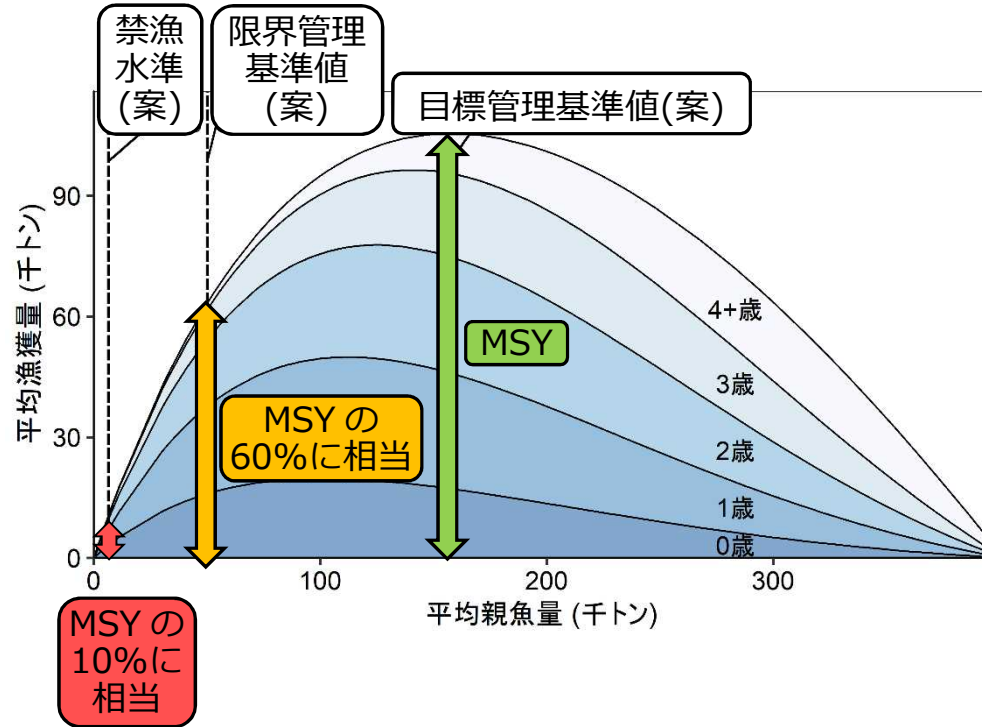


図5 MSYと管理基準値案の関係

本系群の目標管理基準値としては最大持続生産量 (MSY : 105千トン) が得られる親魚量 (SBmsy) を、限界管理基準値としてはMSYの60%が得られる親魚量を、禁漁水準としてはMSYの10%が得られる親魚量を提案する。

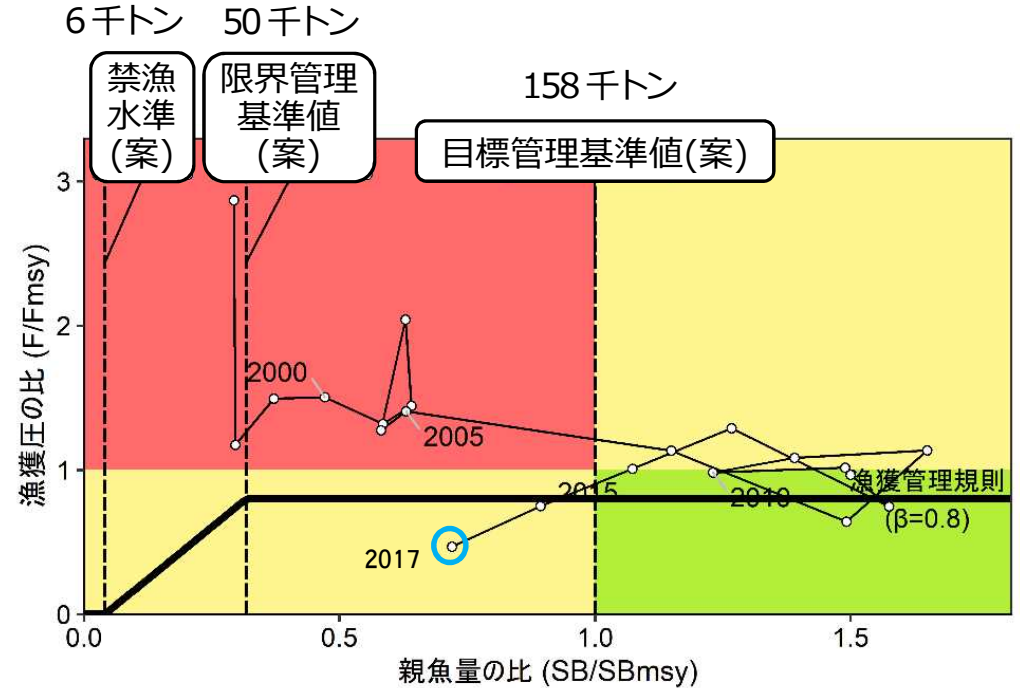


図6 神戸プロット (神戸チャート) と漁獲管理規則案

本系群は、2006年漁期以降、漁獲圧 (F) が F_{msy} 以上・親魚量が SB_{msy} 未満の領域 (図の赤い範囲) 以外にある。 β を 0.8 とした場合の漁獲管理規則案 (※) を黒い太線で示す。2017年漁期のプロット (点) は黒い太線よりも下側に位置するため、2017年漁期の F は当該漁獲管理規則案に基づく F を下回っている。

※ β や漁獲管理規則案については「検討結果の読み方」を参照

ゴマサバ (太平洋系群) ③

■ 将来の親魚量と漁獲量の予測

漁獲管理規則案 (現状の漁獲圧は参考) に基づいて算出

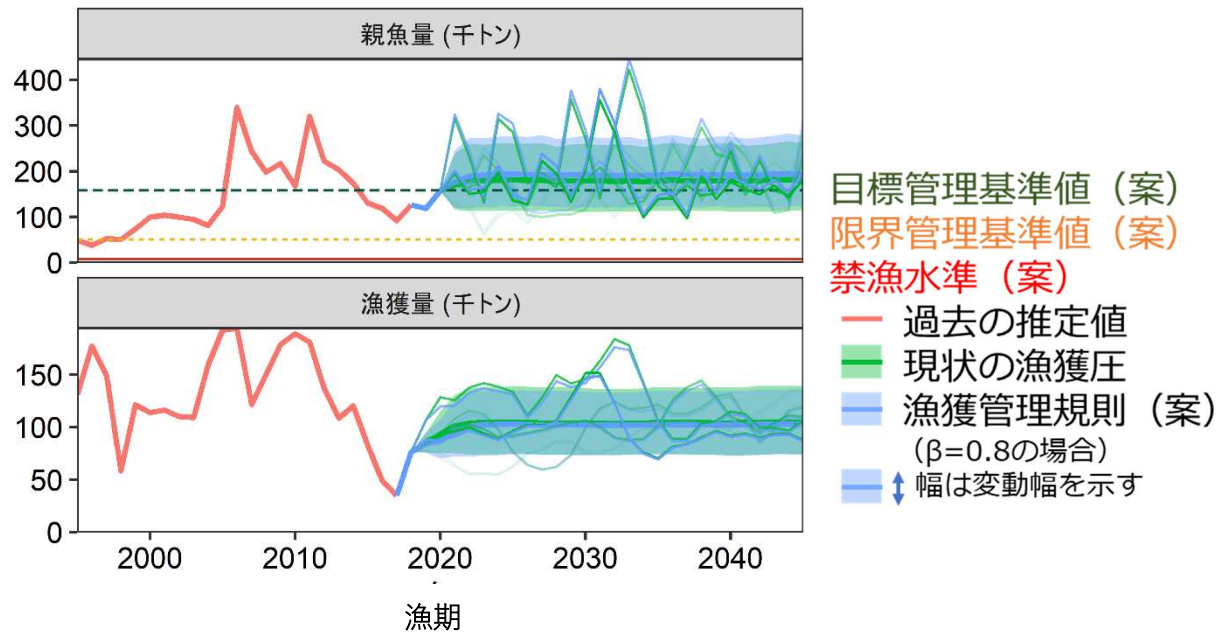


図 7 親魚量と漁獲量の将来予測

β を 0.8 とした場合の漁獲管理規則案に基づく、親魚量は 2020 年漁期には目標管理基準値案に近い水準となり、平均的には緩やかに増加した後、横ばい傾向を示す。 $\beta=0.9$ 以下の漁獲管理規則案であれば、10 年後に目標管理基準値案を 50%以上の確率で上回る (表)。

表 管理基準値案を上回る確率と 2020 年漁期の漁獲量

β	10年後 (2030年漁期) に親魚量が限界管理基準値 (案) を上回る確率 (%)	10年後 (2030年漁期) に親魚量が目標管理基準値 (案) を上回る確率 (%)	2020年漁期の漁獲量※ (千トン)
1	100%	42%	101
0.9	100%	54%	93
0.8	100%	67%	85
0.7	100%	78%	76
0.6	100%	87%	67
0.5	100%	94%	57
0.4	100%	98%	47
0.3	100%	100%	36
0.2	100%	100%	24
0.1	100%	100%	13
0	100%	100%	0

※最新の資源評価により更新されるため、将来の生物学的許容漁獲量(ABC)を確定的に示すものではない

シミュレーションによる 2020 年漁期の漁獲量は、今期の資源評価結果によりアップデートされます。